

東北からの挑戦

DX先導企業

⑨

時間外労働の上限規制の順守と、残業代の減少で収入減に不満を持つ社員。この板挟みに悩む中小企業は少なくない。社員一丸でデジタル変革（DX）に取り組みつつ、残業ゼロを実現するため、みやちゆう（仙台市若林区）の菊池圭吾社長

みやちゆう

自社開発アプリで残業ゼロ

の取った選択が、思い切った先行投資、だった。残業代が減ると会社に無断で副業をしたり、転職したりする社員が出てしまうとして、2019年秋、それまでの残業代を上乗せしたベースアップを実施。その総額は年1000万円超に上った。それでも業務効率と企業価値の両方を高めるべく、DX断行への環境を整えた。

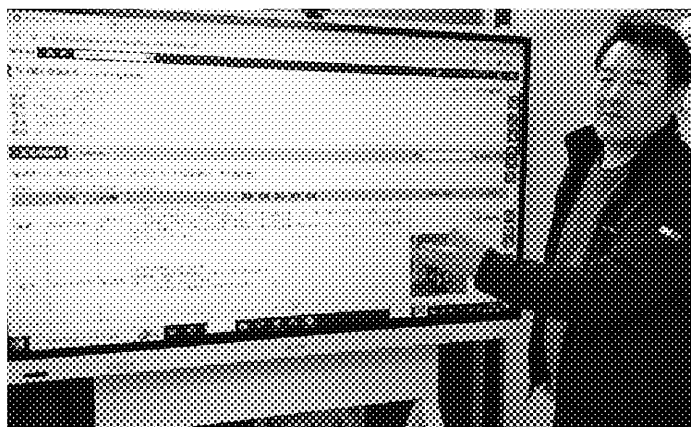
とはいえ、最初は社員の安否確認のシステム化に始まり、「それまでは気付いた人がしていた発注作業を自動

化した。大企業では当たり前前のこと」（菊池社長）というレベルだ。なコードツールを駆使して自前のアプリ

同社は建築用砂・砂利や園芸用砂利・肥料のパッケージングを手がける。原料調達、製造工程、在庫、製品出荷まで全工程を一元管理し、社員全員が画面上で操作できる

「KANBAN」システムまで進化。結果、1人当たり月間残業時間は19年に前年比半減、22年には約1時間まで激減した。現在は

収入減補い効率化努力生む



菊池社長のメッセージを社内に伝えるアプリも開発した

KANBANでは原料や製造日時などに加

え、製品の荷姿の写真まで撮影し、データに保存。出荷後の不具合にも即座に対応できる。「積み荷作業では重さを正確に量るのでトラックへの過積載を防ぐ。法定点検の日程もフォークリフトなどを含む車両からタンク類、消火器まですべて細かく入っており、漏らすことがない」（菊池社長）ことで法令順守を徹底する。

これが企業価値を高め、残業ゼロとも相まって「ここ数年は新卒採用でも募集人数を上回る応募があり、優秀な人を選べるようになった」（同）という効果も出ている。

（木曜日に掲載）